

魚島村のあゆみ 目次

発刊の辞

編集(執筆)委員名簿

目次

第一編 魚島のあけぼの	八
第一章 旧石器時代	〇
第一節 当時の瀬戸内海	〇
第二節 ナイフ形石器	三
○旧石器時代の遺跡	
○ナイフ形石器	
○細石器	
○有舌尖頭器	
第二章 縄文時代	一五
第一節 縄文草創期	一六
第二節 縄文早期	一七
第三節 縄文前期	一八
第四節 縄文中期	一九
第五節 縄文後期	二〇
第六節 縄文晩期	二一
第三章 弥生時代	二二
第一節 弥生前期	二三

○前期の土器 ○鉄器など ○神ヶ市遺跡
第二節 弥生中期 二五

○中期の土器 ○金属器の使用 ○石器 ○海上交通遺跡 ○高地性集落
○神ヶ市高地性集落遺跡 ○篠塚港遺跡 ○宮ノ越遺跡 ○巨石信仰
○磐境 ○石神 ○磐座 ○賽ノ神

第三節 弥生後期 三六

第四章 古墳時代 三七

第一節 古墳 三七

○古墳 ○前期古墳 ○中期古墳 ○後期古墳

第二節 祭祀遺跡 四〇

(1) 大木遺跡

○大木遺跡の出土物 ア粗製小型土器 イ粗製手捏土器 ウ小型仿製鏡
エ滑石製有孔円板 オ滑石製白玉

(2) 神ヶ市遺跡 四五

○出土物 ア土師器 イ手捏式土器 ウ滑石製白玉 エ鉄ていについて
(3) 大木遺跡の古代製塩

第二編 水軍の世紀 五二

第一章 古代の瀬戸内海 五二

第一節 瀬戸内海と古代水軍 五四

○伊予の国造 ○越智氏と紀氏 ○古代の瀬戸内海交通 ○白村江の戦い

○国郡制度

第二節 海上勢力の台頭 五七

○宮崎の海賊 ○純友の乱 ○源平合戦のころ

第二章 警固衆沖島氏の活躍 六二

第一節 警固衆の発生 六二

○蒙古合戦と河野氏の復活 ○警固衆の発生 ○篠塚伊賀守の奮戦
○それからの伊賀守 ○篠塚伊賀守の名残り

第二節 警固衆沖島氏 七〇

○沖島氏の台頭 ○村上義弘と今岡通任 ○沖島氏の面影 ○沖島城

○宝篋印塔(篠塚さん)

第三節 村上信清の伝承 七五

○村上三家成立の伝承 ○村上信清の伝承

第四章 戦国の乱世と島氏の活躍 七八

第一節 嶋氏の台頭 七八

○沖島氏から島氏へ ○村上三家の興隆 ○嶋氏の系譜 ○大内氏との関係
○好味城主嶋左衛門尉

第二節 戦国の乱世と嶋氏 八六

○敵島合戦のころ ○元太城合戦 ○小見山の攻防 ○水軍の城

第三編 近世の政治と経済 九二

第一章 水軍の滅亡と伊予八藩の成立 九三

第一節 三家の拮抗

九三

- 石山合戦と水軍
- 大友氏との決別
- 来島の野望
- 分裂と抗争

第二節 水軍の滅亡

九八

- 天正の陣
- 村上一族の四散
- 城割りと太閤検地
- 福島氏の伊予入国
- 征韓の役どころ
- 古三津刈屋口の戦い
- 水軍嶋氏の終焉
- 藤堂高虎の入部と伊予八藩の成立

第三節 今治藩政下の魚島

一〇七

- 久松（松平）定房の入国
- 村方三役の支配
- 海事法「廻船式目」
- 検地と納税
- 元禄以降の検地と地坪
- 弓削騒動の余波
- 今治藩家老久松長孝の流刑

第四節 村のくらしと漁業の発展

一二二

- 村人のくらし
- 今治藩の漁村支配のようす
- 漁業資源や漁民の保護
- 漁業者の取り締まり
- 漁業の発展
- 『鯛の島』
- 漁場紛争

第二章 文化の諸相から

一三四

- 島の檀那寺道福寺
- その他の寺院
- 亀居八幡神社の発展
- 合祀神社と境内神社
- 神仏の混仰
- 寺小屋と若者宿

第四編 近代社会と郷土

一四八

第一章 明治時代

一四九

第一節 近代社会の夜明け

一四九

- 明治維新と廃藩置県
- 大小区制と戸長
- 戸籍と人口の動態
- 地租改正

第二節 村政のようす

一五四

- 弓削村への合併と分離独立
- 村政のようす
- 官公署の設置
- 明治期の経済および村財政

第三節 村の産業

一六〇

- 鯛網漁業
- 漁場紛争
- 朝鮮出漁
- 江ノ島の開拓
- その他の産業
- 明治期の教育
- 学制と村の教育
- 旭小学校から魚島簡易小学校へ
- 魚島尋常小学校

一七一

第五節 日清・日露の戦役のころ

一七五

- 日清・日露戦争と郷土
- 港湾整備

第二章 大正時代

一七七

第一節 鯛の飼付漁業

一七八

第二節 海上交通の発達

一七九

- 海上交通の発達
- 発動機船
- 定期（郵便）船
- 電気・通信の発達

一八二

- 高井神灯台
- 島に電気を

第三章 昭和前期

一八五

第一節 漁業の発展

一八五

- 鯛網と朝鮮出漁
- イワシ網漁業
- 打瀬網漁業
- 一本釣漁業
- イカ巣漁業
- タコ延縄
- 楯建網漁業
- 石緑網漁業

第二節 戦前の青年団	一九八										
第三節 戦前の教育	一九二										
○大正時代の教育	○魚島実業補習学校	○魚島水産補習学校	○魚島青年学校								
○魚島国民学校											
第四節 村政の一面	一九五										
第五節 暮らしの民俗	一九六										
第六節 産業のようす	一九八										
第七節 戦争と郷土(兵事)	二〇〇										
○徴兵制度	○本村応召者の記録	○大東亜戦争									
第八節 戦中・戦後のくらし(社会)	二〇四										
○日華事変のはじまり	○太平洋戦争と郷土	○麦の供出	○物の供出	○終戦後の混乱	○戦後のくらし	○江ノ島の開墾	○衣料品の配給	○農地改革	○流星楽団の活動	○供出優良で軍政部より表彰	○戦時被災の楓栄丸浮く
第四章 現代(昭和後期〜平成)	二二二										
第一節 村政の発展	二二二										
○離島振興法による生活生産改善	○新庁舎建築	○離島センターの建設									
第二節 流通機構の変化	二二四										
○行人など	○流通機構の変化	○渡海船の復活	○村営定期旅客航路の増便								
第三節 漁業に生きる	二二七										
○戦後の漁業	○「獲る漁業」から「つくる漁業」へ	○離島振興法と漁港整備									
○戦後の漁場紛争	○これからの魚島漁業										

第四節 農業の変遷	二三二		
○終戦後の農業	○柑橘栽培の夢と挫折		
第五節 教育の発展	二三五		
○魚島小学校・魚島中学校	○学校給食	○修学旅行	○交流学习
○歴代校長・PTA会長一覧			
第六節 住みよい郷土づくり(社会教育)	二四一		
○美しい郷土づくりをめざして	○過疎を防げ		
第七節 交通の発達	二四五		
○海上交通の発達	○渡海船物語	○陸上交通の発達	
第八節 電気・通信の発達	二四八		
○電気の導入	○通信の発達	○魚島テレビ5ch	
第九節 水資源の確保を	二五一		
○水の確保	○下水道の整備		
第一〇節 村民の健康と安全を守る働き	二五五		
○消防団	○福祉行政の展開		
第一一節 これからの魚島村	二五九		
○観光	○瀬戸の楽園づくりを		

魚島史年表	二六四
編集後記	二六九